

◆ 第4回 ワークショップ 開催報告 ◆

鎌倉の世界遺産登録へのまなざし

昨年の10月31日(日)午後、御成小学校体育館で、推進協議会主催、鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会共催による第4回ワークショップが開かれました。県下の各市町村にも呼びかけて集った参加者たちが、5テーブルに分かれタイトルに掲げたテーマについて、活発な討議を行いました。

◎ユネスコ、市民・アジア・世界からのまなざし

冒頭に総括進行役からワークショップの進行説明と、そろそろ「鎌倉の真の価値は何か」を見出したいという狙いが話され、宮田一雄・伊達美徳・赤川学のコメントーター各氏から討議への参考ヒントが披露され、テーブル討議に入りました。

伊達さんはタイトルの「まなざし」に関し、さまざまな面を述べました。ユネスコ側のまなざし、市民・アジア・世界からのまなざしはどう見るか？それぞれのまなざし間のギャップをどう埋め、普遍的価値の認識に至るか？などです。

討論の中では、「環境」や「平和」という普遍的価値や、武士たちの残した精神などが話し合われました。禅宗の残したもののにも評価が集まりました。

「顕著で普遍的な価値」を示すには内に環境・平和への配慮を保ちつつも、鎌倉の独自性を示すため、やはり武家の都で推薦をまとめるのか？

サムライが、機能的に考えてそこから前代より合理的で偽善のない文化が生まれ、現実に冷静に向き合うようになったのは事実でしょう。

伊達さんは「歴史的な過去の遺産に目が向き『文化という現代に生きる資産』からまなざしがそれている、そこを市民は感じて『まちづくり手段としての世界遺産登録』と割り切っている」などとも指摘しました。

◎国際会議報告／丘陵部の評価と推薦の行方

テーブル意見の発表と講評の間には、第3回国際会議で、古都保存法第6条の歴史的風土特別保存地区に指定されている丘陵部(以下「古都法6条地区」)を入れ鎌倉の登録推薦を行うべきだという方向が出てきた事実も報告されました。過去の討議でも市街を囲む丘・海の自然に熱いまなざしが注がれていました。登録を進める4県市・文化庁と、外国専門家たちのまなざし、市民のそれとが一致してきたようです。

宮田さんは「登録の先送りは残念だが、待機期間は熟成期間と考え、まちづくりに歴史を生かす考え

が浸透するなら、それも貴重」と指摘しました。

◎テーブル討議で出された意見と総括

Aテーブルでは「1つ1つはこじんまりだが個性の集合体がスゴイ」、「訪れれば解る魅力一歩いて振り向けば山が」などが語られ、Bテーブルでは「景観の美は世界に通じる」という発言がありました。Cテーブルでは低く囲む山・スケールの小ささは「ほっとする」「暖かい静寂にひたれる」などの評価が出され、D・Eテーブルでは居心地のよさ、行事とNPO、鎌倉を知りたい人の多さなどの観察がありました。これらの長所は鎌倉のまちづくりで大事にしていきたいものです。

Bテーブルで「そっけない市民をやめる」工夫が語られました。Dテーブルでは「町内会を活かす、市民・行政の協働」、「守ると共に攻める必要、発信」などの意見が出されました。

一方、現在そして世界遺産になった時の道路・交通問題を心配する声も多く出ました。歴史的な町で必ず出てくる問題ですが、交通需要管理の諸手法や、公共交通利用で対処して行く必要があります。

Eテーブルからは、「すごいと思うものが少ない」、「根本的に見直すべきだ」などの厳しい声も出ました。

こうした声に対して総括進行役の最終感想は「鎌倉の文化資産はそれほど壮大でないが、歩いて廻れる中に街と文化遺産・自然が、身近に共存して居心地がよい。世界遺産というと豪華・壮大の印象だが、映画界では小津映画も評価されるようになった。より新しい世界遺産のタイプをこの鎌倉から提示していく気持でよいのではないか。古都法6条地区も合わせ、全体を一つの遺跡とする方向に希望がある」というものでした。



ワークショップ会場風景

News! the 世界遺産

オバマ米大統領の鎌倉大仏訪問

昨年11月14日、横浜でのAPEC首脳会議終了後、オバマ大統領が鎌倉大仏を訪問されました。

半月前から20人の機動隊が入り、24時間体制で警



写真は思い出の抹茶アイスを楽しむオバマ大統領
＝アメリカ大使館提供

戒するなど、警備は徹底していました。大統領は前回の訪日時のスピーチで、子どもの頃“the great bronze Amida Buddha in Kamakura”を訪れたことに触

れました。境内を案内された高德院の佐藤美智子さん（鎌倉ユネスコ協会会長）は「私は“阿弥陀仏”と正確に伝えたその言葉に深い感銘を受けたんですよ」と大統領に話しかけられました。

鎌倉の世界遺産登録の話は出なかったようですが、その前日に各国首脳夫人が大仏を訪問した際には、松尾市長が同行し「世界遺産の街」を強調されました。これからもこのような機会を捉えて、鎌倉の存在感を世界に向けて発信する必要があるようです。

◆ 武家の古都 鎌倉シンポジウム②開催 ◆

鎌倉の若者たちと世界遺産 — これからの鎌倉を想い描く

昨年11月20日（土）建長寺 応供堂で「武家の古都・鎌倉連続シンポジウム②」が「鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会」主催、当推進協議会共催で開催されました。

20回目を迎えた今回は、今後の鎌倉を担う若い世代を主役に、鎌倉がめざすべきビジョンとはなにか議論されました。鎌倉で活躍する若者を代表したパネリストには、上江洲慎さん（鎌倉てらこや事務局長）、島岡朋子さん（西御門サローネ スタッフ）、宮部誠二郎さん（Chameleon代表）を迎え、松尾水樹さんがコーディネートして、ステージ1は「鎌倉の若者たちの視点、鎌倉のまちと人から学ぶ、鎌倉のいまの課題を考える、私たちのめざす鎌倉のビジョン」が語られました。

ステージ2では若者の一人として松尾崇市長も加わり、「若者たちとともに鎌倉の明日を—世界遺産都市鎌倉のすがたとは」をテーマに、鎌倉のめざすべきビジョンについて議論されました。

（波多コーディネーター）市長のグランドビジョンは？

（松尾市長）鎌倉で武士の精神を発信していくことが大切だと思います。

（宮部さん）まだまだ若者は鎌倉の世界遺産登録に興味を持っていない人が多いですね。

（上江洲さん）僕は登録はどちらでもいいと思っています。登録されるにあたって三つあって、一つめはブランド、二つめは権威、三つめは本質的な部分でまちづくりのきっかけになっているので、このようなきっかけになるのな



松尾市長（左から2人目）とパネリストの皆さん

らあと10年ぐらい登録活動をしていてもいいと思います。

（島岡さん）私は鎌倉を国際都市にするためには世界遺産登録が必要だと思います。

（宮部さん）市民としてはこのまま登録されないと悔しいですね。めざしているのなら絶対登録されて世界に認められたいです。

（松尾市長）若いパネリストの皆さんの話を聞き、世界遺産登録はわかりやすいテーマであるが奥深いものだと思います。プライドとして登録されて欲しいという気持ちはわかるが、それだけに重きを置かず、世界遺産登録はいいまちづくりの通過点と考え、たくさんの鎌倉を学ぶきっかけになっている、そこが大切だと思います。

その他にも「情報を共有できるよう気軽に話し合える場が必要」「もっと若者にも参加してもらえるように若者が主役になれる場を作りたい」「電線の地中化や建物の色彩統一が必要」など、様々な意見が出されました。これからの鎌倉を動かす原動力となる若手パワーを集結すべく、若者が中心となるイベントを増やしていくことが今後の課題の一つでしょう。そのような意味でも今回のイベントは鎌倉を引っ張ってきた先輩たちだけでなく、参加した若手同士の横の繋がりも広がる有意義なシンポジウムとなりました。